

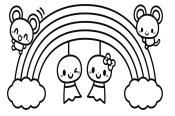
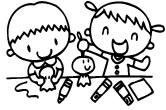


令和6年6月1日

6月 ちびっこの森通信 vol.85

☆☆今月のテーマ☆☆

- ・梅雨期の衛生に気をつけ、健康生活の良い習慣をつける
- ・時の記念日、虫歯予防デーなどの行事に興味を持って参加する



ひよこぐみ(0歳児)だより



鮮やかな色合いのサツキからのバトンを受けるべく雨粒帽子がお似合いの紫陽花の蕾がその時を待ち受ける今日この頃。3人乗りベビーカーが常連だった子もつかまり立ちがしっかりとしてきたので少し上のお兄ちゃんたちの仲間に加わり、外気浴がてらの賑やかなお散歩姿へと進歩しています。はじめてのリズム遊びの場では、心地よいピアノ演奏に加え、大型絵本が気に入ったようで釘付けになったり、リズムに合わせて身体をユラユラ、トントンと手拍子で楽しんでいました。これから蒸し暑くなる季節の変わり目ですので発汗など小まめに注意した体調管理をして元気に過ごしていけるように見守っていきましょう。



うさぎぐみ(1歳児)だより



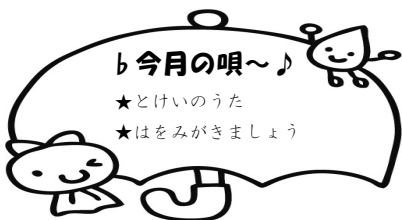
春から初夏の勢いのました日差しを受け、弱々しい若葉が次第に色濃さをましていくように入園当初、不安定だった子たちも次第に涙顔から本来の笑顔が見られるようになってきたのは何よりと感じています。園に到着したら脱いだ靴下の片づけやスモックを着る、などの習慣が定着しつつあるようです。お散歩は当初、不安定な情緒もあってバギー移動で対応していましたが、今は(歩ける子は)みんなで誘導ロープでテクテクと歩行の練習中です。歩行がままならない子もそれに続けとばかりに、公園等の広い場所で練習中です。室内ではクレパスでのお絵描き等の製作やブロックでの造形遊びを楽しむ姿が見られます。今後もよく見守っていききたいと思います。



ぱんだぐみ(2歳児)だより



自我が徐々に確立する月齢であると共に、語彙や言葉数が日に日に増え、対人関係ではコミュニケーションが図られる様子が見られるようになってきました。好奇心旺盛なみんなは目に触れるものすべてに「あれはなに？」や「これは？」と矢継ぎ早に聞いてくる「質問魔」の時期に差し掛かる月齢です。こちらは着実な発達の階段を登ろうとしている証左ですので逐一受け止め、丁寧に応答していくことで心の育みをしっかりとしていきたいと思っています。このところ段々と蒸し暑さが気になる天候が多くなってきましたが、ぱんだ組伝承のマンション横の小径がお気に入りの場所となっていて、そこでのそよ風と日陰と自然探索が目下、密かなブームとなって楽しいひとときを過ごしています。これからは熱中症対策等をしながら外遊びをしていければと思います。



♪ 今月の唄 ~ ♪

- ★とけいのうた
- ★はをみがきましょう



～行事予定～

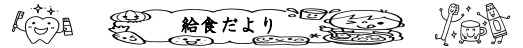
- ・歯と口の健康週間の会… 4日
- ・英語教室… 5日
- ・時の記念日の会… 10日
- ・体操教室… 12日
- ・身体測定… 14日
- ・リミック教室… 18日
- ・誕生日会… 20日
- ・音楽会(2歳児のみ)… 24日
- ・内科検診… 24日
- ・避難訓練… 25日
- ・歯科検診… 28日



～保育のポイント～

これまでの学校では理性的、認知的発達だけを目指してきました。情動的、直感的、創造的発達をめざすことの大切さを知っていても、それらを育てる具体的な方法を持ちませんでした。そんな中、21世紀の後半に医学、生理学、とりわけ脳科学の分野において革命的な発見がなされ、人間の脳はその機能を左脳と右脳の2つに分化させているという発見がありました。人間の脳はこの2つの脳の両方が連動して働く時、最高の働きを示す、ということを知ったハーバート大学のノーマン・ゲシュウィンとアルバート・ガラバーダは脳を解剖学的に調べ、天才と呼ばれる人達は脳をおしなべて左右バランスよく使っており、普通の人達は脳の使い方が解剖学的に極端に左に偏っていることを立証したのでした。そこで、今までその存在すら認識されてこなかった右脳に「ひらめき」や「想像性」、「創造性」の働きがあり、「感性」や「人間性」も深く関わっていることも分かってきました。さらに左脳は電気系統系の回路で、右脳はホルモン系の情報回路で、人間には2つの異なる情報回路があることも併せて解明されました。(右脳のイメージには神秘的な働きがあり、それを(潜在的なものを)脳に顕在化させているのが脳内ホルモンの働きであり、脳内の未知なる多くの他のホルモンが奇跡を起こさせる源であると、やがて科学が解明し、より人間の脳の神秘的な働きを明らかにしていくことも近い将来あり得ることでしょう。このように右脳の働きが、次第に科学的に立証されている状況にあります。これからの教育は知識を教えるよりも、本来持っている潜在能力を引き出し、その能力を使う方法を教えることを大切に考えるようにし、知性と直感、心と体、理性と感情の統合教育が大切で、それが教育の究極の目標となるのが求められる、とありました。保育園でも非認知能力に着目した保育を取り入れる動きが出てきていますので注目すべき視点としてご紹介する次第です

～右脳教育で子どもは変わる(七田真著)より抜粋～



給食だより

開花期間短く淡色で心和ませてくれる桜同様に、清々しい春の季節もあつという間の選手交代。そして、昨今、ジワジワというよりバツと入れ替わって秋の居場所も奪い居座る蒸し暑い夏が定番となっています。このように気温と湿度が高くなってくると、注意しないといけないのが食中毒。今や国民食の一つで世界でも人気のカレーですが、「二日目のカレーが絶品」と言われ、常温保存したものを食し食中毒で大変、というニュースも記憶に新しいところではないでしょうか？食中毒は有害な微生物(細菌やウイルス)に起因する健康被害と言われ、このカレーのケースのように食品や飲料を介して有害物質が体内に入り、腹痛、嘔吐、下痢や発熱などの症状に見舞われる状況を指します。中でも、暑くなる季節に気をつけたいのが細菌で、これは1年を通じて発生するのですが、特に食中毒を引き起こす細菌は30～40℃で最も増えやすいのでこれから暑くなる季節は要注意と言えます。家庭で発生する食中毒は食品の取扱いの不注意から起こることが殆どですから、その予防は「付けない」、「増やさない」、「やっつける」の3原則を頭に入れ、注意していくようにしましょう。まずは、手洗いの励行、(生野菜を切ってから肉類を切るなど)調理の手順や使用したまな板の消毒の励行などが「付けない」ことでは重要。冷蔵庫や冷凍食品は放置することなくすぐに冷蔵・冷凍庫へ保管するようしましょう。冷蔵庫の詰め込み過ぎや長期間の保管も避けることが「増やさない」ということで念頭に置く必要があります。最後に、多くの細菌が75度以上、1分以上の食材の中心部まで加熱することで死滅することから「やっつける」上で大切なことです。最後に、使用後の調理器具の殺菌には塩素系漂白剤に含まれる次亜塩素酸ナトリウムが有効ですので洗剤で洗った後の殺菌も励行すると安心に繋がります。後は、食べる前に自分で食品の色あい、臭いや口に含んだ際の味わいなどで異変を感じたら食べない、という自己防衛を図っていき、元気にすごしていけるようにしましょう。